

## 「日本畜産学会第125回大会」にて

### 家畜改良センター職員が日本畜産学会賞を受賞しました

平成31年4月2日

(独)家畜改良センター

平成31年3月27～30日まで麻布大学（神奈川県相模原市）で開催された「日本畜産学会第125回大会」において、家畜改良センター改良部情報分析課の井上改良技術専門役が、日本畜産学会賞を受賞しました。

（公社）日本畜産学会は、わが国における畜産学および畜産業の進歩・発展に資することを目的として、大正13（1924）年に設立され、畜産及び社会と動物のかかわりに関する学術研究の発表や機関誌の発行などの活動を行っています。

そして、畜産学の発展に関し直近5ヵ年以内に顕著な業績をあげた受賞候補者である正会員の中から毎年2名が選考され、畜産学会賞が授与されるものです。



日本畜産学会賞を受賞した井上改良技術専門役



学会賞受賞講演の様子

受賞研究課題は、「和牛の生産性向上に関する形質間の遺伝的関係および因果構造の解明に関する研究」であり、

- ・ 黒毛和種の枝肉形質と、①内臓疾病、②脂肪酸組成、③気質との3つそれぞれについて、遺伝相関を明らかにするとともに、
- ・ ①枝肉形質と脂肪酸組成との間、②母牛の繁殖形質と産子の大きさとの間について、それぞれに係る因果構造の方程式モデルを構築して因果効果を推定し、

育種改良の現場での活用が期待される新たな情報や知見を得たことで効率的な改良の可能性を示したことが評価され、今回の受賞となりました。